

農作物の生育概況等について

1 気象経過

8月は、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。平均気温は、平年より高く、降水量は、平年並みから多く、日照時間は、平年並みから多かった。

9月上旬は、平均気温が平年より高く、降水量も多く、日照時間は平年並みで経過した。

2 主な農作物の生育状況と当面の技術対策

(1) 水 稲

○ 生育状況

- 出穂期は、平年より3日程度早まり、出穂期以降も気温が高く推移したため、登熟は、平年に比べて7日程度早く進んでいる。
- 面積当たりの収穫数は、地域差があるものの概ね平年並みとなっている。
- 県全体の刈取始期は、平年より4日早い9月13日頃となった。9月15日現在の県全体の刈取面積割合は、約14%（平年比+6%）となっている。
- 出穂期以降の高温で、白未熟粒が若干見られるものの、収穫が進んでいる「はえぬき」「雪若丸」は、現在のところほぼ全量が一等米に格付けされている。

○ 当面の技術対策

- 刈取適期を過ぎると、胴割粒や茶米が増え、品質の低下が懸念されることから、適期刈取りを徹底する。
- コンバイン等の農業機械を用いた作業が増えることから、農作業事故防止のための基本的な対策を徹底する。

(2) 果 樹

○ 生育状況

- りんご「つがる」の収穫盛期は、前年より5日程度遅い8月30日～9月10日頃になった。高温少雨による果実肥大不足、着色不良、日焼け果発生の影響で、出荷量は前年を下回っている。
- 雨よけ栽培のぶどう「シャインマスカット」の収穫は、8月下旬から始まっており、9月20日頃から本格化する見込みである。果実品質は、高温少雨の影響で果粒肥大が前年に比べやや劣るものの、糖度が高く食味良好である。

○ 当面の技術対策

- 各品目の適期収穫と厳選出荷、適切な病害虫防除を実施する。

(3) 野 菜

○ 生育状況

- えだまめの晩生品種「秘伝」は、高温の影響で子実肥大が緩慢となっているため、出荷開始時期がやや遅れる見込みである。
- 露地ねぎは、例年よりやや遅い9月上旬から収穫が本格化している。高温少雨の影響で、生育は遅れており、出荷量は少ない。

○ 当面の技術対策

- 各品目の適期収穫と厳選出荷、適切な病害虫防除を実施する。